

C型肝炎を“飲み薬で治す時代”



肝胆膵内科 堤 幹宏教授

- C型の慢性肝炎および代償性肝硬変の治療薬としてインターフェロンを使用しない経口抗ウイルス剤が開発され、2014年の9月にはダクラタスビル、アスナプレビルが、2015年5月にはソフォスビルが、そして9月にはハーボニーが発売されました。さらにヴィキラックスが承認され、今後発売されることになっています。
- 経口剤の特徴はほとんど副作用がないことです。
- C型肝炎は、飲み薬だけで治療する時代になっています。
- インターフェロン治療が無効だった方、インターフェロンの副作用で治療中止となった方、高齢者、合併症等で治療が受けられなかった方、代償性肝硬変の方も治療ができるようになりました。
- 石川県には20歳以上は約96万人います。C型肝炎は200人に1人といわれており、約4,800人の感染者がいることとなります。しかし、現在C型肝炎感染者として登録されているのは約2,900人で2,000人ほどの方が感染を知らないまま生活しています。
- HCV抗体の測定を行っていただき、C型の慢性肝炎および肝硬変の患者さんを是非、肝胆膵内科へご紹介ください。なお、初診外来は毎週月曜日・水曜日・木曜日となりますが、事前にお知らせいただければ、何曜日でも対応させていただきます。

(問い合わせ先)

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学一丁目一番地

TEL 076-218-8219 FAX 0120-076-286

金沢医科大学病院

地域医療連携事務課

regional@kanazawa-med.ac.jp

Kanazawa Medical University Hospital